

市民社会におけるSDGs学習の普及啓発に関する考察

— 松戸市民向けSDGs基礎講座を事例として —

佐藤 秀 樹*

要 約

本研究では、千葉県松戸市民を対象としたSDGs基礎講座のプログラムの開発とその実施を通じ、講座参加者への簡易な事前アンケートの内容、SDGs学習の振り返りシートによる参加者の理解度の把握、アクション・プランの作成や講座全体のアンケートによる定性的な分析結果から、今後の市民社会におけるSDGs学習の普及啓発を浸透・定着させていくための学習の構成内容、進め方、課題や方向性を検討することを目的として実施した。その結果、SDGs学習を、導入「2030SDGsカードゲーム」、展開「地域社会、企業、海外とのつながりとSDGs」、まとめ「アクション・プランの作成、発表」の構成内容で進めることで、参加者がSDGsの特徴としての経済、社会、環境のバランスをとることの難しさやSDGsの全体像についての理解が深まった。また、SDGsの17の目標と関連した身近な地域社会、企業や海外とのつながりに関する具体的な取組みから、SDGsの取巻く課題や各目標との結びつきに関する複眼的且つ横断的な視点を培うことができた。さらに、アクション・プランの作成を通じて、参加者のSDGsに対する学びの内容を浸透させ、SDGsに対して当事者意識を高めることができた。今後は、SDGsの目標達成へ向けて、個人、組織や地域社会での行動変容を確かなものとしていくために、より効果的・効率的な講座内容の検討・見直し、フィールドワークやスタディツアー等の現場体験型SDGs学習内容の開発、松戸市の中でSDGsをより促進させていくための市民参加型SDGsネットワークの構築・拡大やSDGsをけん引するリーダーの養成が課題である。

キーワード：市民社会、SDGs学習、普及啓発、当事者意識、地域の課題解決

1. 背景と課題

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, 以下、SDGs）は、世界の様々な課題について共通認識を持って考えるための一つの枠組みである。SDGsは17の目標、その下に169の詳細ターゲットと232の指標から構成されている。SDGsは、「誰一人取り残さない」をスローガンとし、「普遍性」、「包摂性」、「参画型」、「統合性」、「透明性」を重視した持続可能な社会づくりを目指している。そして、当該目標は、環境、社会や経済のつながりを意識しながら、お互いに関連す

る課題を同時に解決していくことを目指している。

日本の2020年のSDGs達成度ランキングを見ると、日本は世界166ヵ国の中で17位と上位の方に位置している（Sachs, J. 他, 2020）。図1の通り、達成のできている目標（Achievement）としては、「目標4：質の高い教育をみんなに」、「目標9：産業と技術革新の基盤をつくろう」、「目標16：平和と公正をすべての人に」となっている。しかし、最大の課題が残っている（Major challenges remain）のは、「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」、「目標13：気候変動に具体的な対策を」、「目標14：海の豊かさを守ろう」、「目標15：陸の豊かさを守ろう」、「目標17：パートナーシップで目標を達成しよう」となっている。これらの具体的な内容としては、「女性国会議員

2020年11月30日受付

* 江戸川大学 社会学部現代社会学科講師 環境教育、環境社会学、国際協力・社会支援

| 目標達成 (Achievement) | | 課題が残っている (Challenges remain) | | 重要な課題が残っている (Significant challenges remain) | | 最大の課題が残っている (Major challenges remain) | |
|-----------------------|-----------------------|---------------------------------|--------------------|--|-------------------------------|--|-------------------|
| 4 質の高い教育を みんなに | 9 産業と技術革新の 牽引をつくらう | 1 貧困を なくそう | 3 すべての人に 健康と福祉を | 2 気候を 守ろう | 7 エネルギー-貧困の 移行を加速しよう | 5 ジェンダー平等を 実現しよう | 13 気候変動に 適応しよう |
| 16 平和と公正を すべての人に | | 6 安全な水とトイレ を世界中に | 8 働きがいも、 経済成長も | 10 人や国の不平等 をなくそう | 12 つくも減ら す、使いまわ す、リサイクル | 14 海の豊かさ を守ろう | 15 陸の豊かさも 守ろう |
| | | 11 住み続けられる まちづくりを | | | | 17 パートナーシップで 目標を達成しよう | |

図1 日本における SDGs の課題達成状況

出所：The Sustainable Development Goals and COVID-19. Sustainable Development Report 2020, 270 頁より筆者作成。

の数が少ない（目標5）, 「二酸化炭素の排出量の増加や再生可能エネルギーの割合の低さ（目標13）, 「海洋資源の乱獲（目標14）, 「農産物の輸入増加による森林の減少と生物多様性保全への影響（目標15）」や「政府開発援助（ODA）の支援額の減少（目標17）」等, ジェンダー, 環境, パートナーシップに関する主要な課題が残されている（バウンド, 2020）。

SDGs の具体的な取組みは各国に委ねられており, 日本政府はこれまで SDGs 推進本部の設置や SDGs の8つの優先課題⁽¹⁾ を掲げ, 自治体, 企業, 学校, NGO/NPO や市民団体等に SDGs の普及啓発を促している。しかし, SDGs が公表されてから5年以上経過した現在において, 日本の社会における SDGs の浸透の状況を見てみると, 政府, 大企業等では SDGs 関連のセミナーの開催や, 企業では本業において SDGs の考え方を取り入れたビジネスの展開⁽²⁾ 等, 政府や大企業の限定的な範囲に留まっている。日本は企業の約99.7%が中小企業であり（中小企業庁, 2019）, その経営者による SDGs 認知度は15.8%と低い（関東経済産業局・一般財団法人日本立地センター, 2018）。

一方で, 自治体では, 78%が SDGs の検討・準備・実施中と前向きにとらえているとの調査結果がある（先端教育機構, 2019）。また, 朝日新

聞（2020）が行った一般市民（東京都, 神奈川県）における SDGs の認知度は32.9%（2020年3月時点）と年々高まってきている（図2）。特に, 年代別で見ると, 20代が43.4%, 10代は36.9%と全ての年代の中で高い割合を占めている（図3）。

徐々にではあるが, 政府, 大企業に加え, 自治体や一般市民での SDGs の取組みや認知度が上昇している。その中で, 2030年まで SDGs の目標を達成していくための次のステップとして, 市民が SDGs の提起されている内容や課題に対して十分な理解を持って実際に行動へ移していくための SDGs 学習が必要となっている。

「SDGs と社会教育・生涯学習」研究の展望に関する報告によると（田中, 2020）, 学校における SDGs 学習が先行し, その内容は知識学習が主である。そのため, 参加型によるアクティブラーニング手法の導入や, グローバルな問題を意識した上で地域の課題とどのように結びつけていくか, そして, 個人や社会における実際の行動変容へつなげていくための学習内容に関する課題が指摘されている（田中, 2020）。また, 2019年10月5~6日に渡り千葉県松戸市で開催された「第46回松戸市消費生活展」での一般市民を対象とした SDGs パネルによる普及啓発活動では, SDGs の認知度や関心が全般的に低かったこと, 並びに地

市民社会における SDGs 学習の普及啓発に関する考察

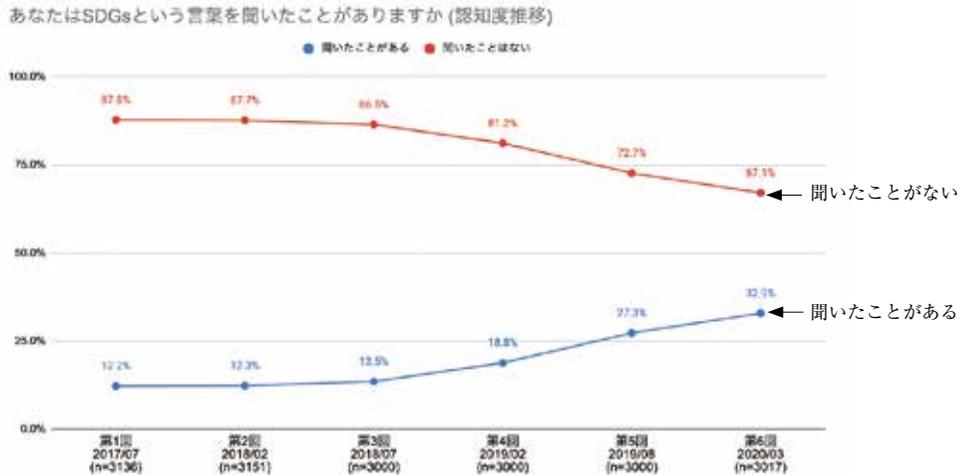


図2 SDGsの認知度

出所：朝日新聞「2030SDGsで考える」より転載・加筆。

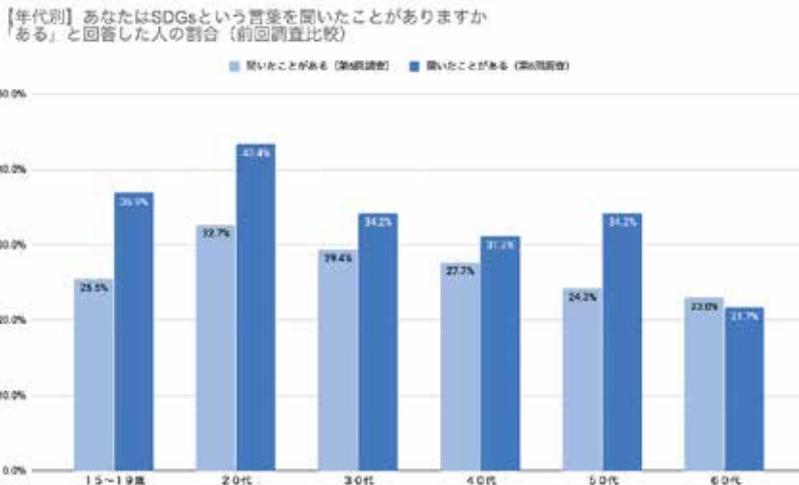


図3 SDGsの年代別認知度

出所：朝日新聞「2030SDGsで考える」より転載。

域住民に焦点を当てたSDGs学習の内容やその進め方の検討を通じて学習機会の場をより多く提供していく必要性が確認できた(佐藤, 2020)。

本研究では、松戸市民を対象としたSDGs基礎講座のプログラムの開発とその開催を通じ、講座参加者への簡易な事前アンケートの内容、SDGs学習の振り返りシートによる参加者の理解度の把

握、アクション・プランの作成や講座全体のアンケートによる定性的な分析結果から、今後の市民社会におけるSDGs学習の普及啓発を浸透・定着させていくための学習の構成内容、進め方、課題や方向性を検討することを目的とする。

SDGs(持続可能な開発目標)と私たちの暮らしとのつながりについて学んでみませんか?

松戸市民向け SDGs 基礎講座

本講座は、松戸市内で SDGs 関連の取組みの実践者やつながりの会のメンバーによる SDGs 活動の紹介、並びに SDGs アクションプランの作成を通じ、ご自身と生活とのつながりについて理解を深めてもらうことを目的に開催します。



講座主催: まつど地域活躍塾つながりの会(つながりの会)

本会は、松戸市役所が主催する「まつど地域活躍塾」の修了生有志で結成された市民活動団体です(松戸市市民活動団体登録済)。

第1回 8月30日(日)15:00~17:30 ●講座全体の概要説明
SDGs とは? ●2030 SDGs カードゲーム

第2回 9月13日(日)15:00~17:30 ●高齢者の消費者被害防止
地域社会と SDGs ●松戸の森林・里山保全活動
●フードバンクと地域のつながり

第3回 9月27日(日)15:00~17:00 ●SDGs 達成に向けた企業の取組み
企業と SDGs ●松戸市内の企業の具体的な取組み紹介

第4回 10月11日(日)15:00~17:00 ●開発途上国のエビ養殖とのつながり
海外と SDGs ●バングラデシュ天然蜂蜜支援事業

第5回 10月25日(日)15:00~17:30
SDGs アクションプラン作りと発表、まとめ

● **開催場所:** 新松戸市民センター 支援コーナー(〒270-0034 松戸市新松戸3丁目27番地)多定
● **参加費:** 2,000円(5回一式)※当日、会場にてお支払い下さい。
● **人数:** 20人 ※先着順。定員になり次第締め切りとさせていただきます。
● **お問い合わせ先・申込方法:**

お問い合わせおよびお申込みは、下記メールアドレスまでお願いいたします。
宛先・担当: つながりの会 ■■■■■ メールアドレス: ■■■■■
お申込み後、参加に当たっての必要事項を記入して頂くフォームをお送りしますのでご返信ください。

※新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、開催の中止・延期の可能性があります。
※ 会場では、感染症対策を十分にこころを考慮します。
※ 場内には個人情報は本講座の開催管理のみに使用し、他の目的での使用はいたしません。

図4 松戸市民向け SDGs 基礎講座のチラシ

出所: つながりの会。

2. 調査の目的と方法

本研究では、まつど地域活躍塾つながりの会(以下、つながりの会)⁽³⁾が企画立案した「松戸市民向け SDGs 基礎講座」の開催による実践的なアプローチにより、市民社会において SDGs を浸透・定着させていくための学習内容の検討、参加者の理解度、課題の把握や SDGs の普及啓発の方向性を分析することを目的として実施した。

最初に、SDGs 基礎講座の学習内容を作成するための過程を下記に述べる。

(1) 基礎講座のスケジュールと参加者の決定

講座全体の概要は、図4のチラシの通りである⁽⁴⁾。本講座の日程や内容等については、つながりの会の SDGs 推進メンバーが中心となって決定した。

今回(2020年)の講座スケジュールは、第1回: 8月30日(日)「SDGs とは?」、第2回: 9



写真1 SDGs 基礎講座 第2回目：2020年9月13日
「地域社会とSDGs」

高齢者の消費者被害防止活動とSDGsの講義の様子（写真撮影：つながりの会）



写真2 SDGs 基礎講座 第5回目：2020年10月25日
「SDGs アクション・プラン作り、発表」

アクション・プラン発表会の様子（写真撮影：つながりの会）

月13日（日）「地域社会とSDGs」、第3回：9月27日（日）「企業とSDGs」、第4回：10月11日（日）「海外とSDGs」、第5回：10月25日（日）「SDGs アクション・プラン作りと発表、まとめ」の全5回に渡り開催した（写真1, 2）。場所は、新松戸市民センターで対面式により実施した⁽⁵⁾。

参加者の募集は、チラシ500部（図4）⁽⁶⁾を作成して松戸市役所や市民センター等で配布を依頼し、また、Facebook等のSNS媒体を活用した告知も行った。その結果、6名の参加が決定した⁽⁷⁾。

なお、チラシの作成に当たっては、タイトルにもある「松戸市民向けSDGs基礎講座」というように、松戸版SDGsを強調し、SDGsに関わる取り組みもできるだけ松戸と関係のある内容を取り上げる工夫をした。その理由としては、地域住民のSDGsと日常生活とのつながりについて自分の暮らす身近な地域から考えてもらうことでSDGsに対する学びをより一層深めることができると考えたからである。

(2) 基礎講座の目的と講座（SDGs学習）内容の検討⁽⁸⁾

今回の調査研究の内容と進め方に関する全体像は、図5の通りである。

講座の目的は、松戸市民を対象としてSDGsをより広く知ってもらい、日常の生活とSDGsとの関わりについて理解を深めてもらうことであっ

た。講座では、松戸市とできるだけ関連のある内容を取入れ、身近な視点からSDGsを捉えてもらえるようにした。特に、松戸市消費生活展におけるSDGsパネルを使用した取組みでは、市民が身近な生活環境にある食べもの、水、電気等とSDGsとの各目標とのつながりを解説することで、SDGsに対する一定の理解の促進につながったことが分かっている（佐藤，2020）。

講座の構成は、導入（第1回）、展開（第2～4回）、まとめ（第5回）の計5回分の内容を設計した⁽⁹⁾。講座の回数については、つながりの会のSDGs推進メンバーから全体で2～3回で良いのではないか等の意見もだされた。しかし、SDGsの切り口は多様であり、SDGsの特性である課題の複眼的且つ横断的な視点をできるだけ多く身につけ、市民のSDGsに対する知識の習得、態度の変容や実際の行動へ結びつけていくことを考慮した結果、講座は全5回とした。そして、参加者の集中力等を考えると講座当たり2時間～2時間30分の時間が妥当であるとの結論に至った。また、各講座には学習目標を設定し、SDGs学習の内容を評価する際の基準とした。

講座（第1回目）の導入部分では、つながりの会のメンバーが講座全体の概要や進め方等について説明した後、SDGsの全体像を分かり易く理解してもらうため、「2030SDGsカードゲーム」⁽¹⁰⁾を取入れた。そして、参加者は環境、社会や経済

に関する課題等のつながりを考え、それらのバランスをとりながら解決するための難しさを実感した。

カードゲームにより SDGs の全体像を参加者に理解してもらった上で、展開（第2～4回）では松戸市を中心とした SDGs との関わりから、同市の地域社会、企業や海外とのつながりで SDGs の考え方に対する理解を深めるための学習設計とした。

次に、講座の展開部分となる第2回目「地域社会と SDGs」では、「①高齢者の消費者被害防止活動と SDGs」、「②松戸のみどりを守り・ふやす里山保全活動の目的と役割」、「③ With コロナ時代の子ども食堂とフードバンク」をテーマとした3つの講義を設定した。①では、オレオレ詐欺や架空請求詐欺等の高齢者の消費者被害の実態を共有した上で、主として「目標11：住み続けられるまちづくりを」の視点から消費者被害を未然に防ぐことの重要性に関する講義内容とした。さらに、その中で、「詐欺・強盗による貧困をなくす（目標1：貧困をなくそう）」、「高齢者の詐欺被害防止による健康と福祉の維持（目標3：すべての人に健康と福祉を）」、「見守り・情報提供による公正の維持を（目標16：平和と公正をすべての人に）」、「詐欺・強盗の防止に近隣・地域の力を（目標17：パートナーシップで目標を達成しよう）」等、SDGsの各目標とのつながりについて強調した。②の講義では、松戸の里山保全活動の歴史の変遷や住民主体による緑を守るための活動が紹介された。そして、SDGsの環境系の目標である、「目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「目標12：つくる責任、つかう責任」、「目標13：気候変動に具体的な対策を」、「目標14：海の豊かさを守ろう」、「目標15：陸の豊かさも守ろう」と、松戸の緑や生物多様性保全等とのつながりに関する内容とした。③では、コロナ禍における子ども食堂とフードバンクの現状、課題や今後の方向性等に関する講義内容とした。そして、「目標1：貧困をなくそう」、「目標2：飢餓をゼロに」、「目標3：すべての人に健康と福祉を」、「目標12：つくる責任、つかう責任」や「目

標17：パートナーシップで目標を達成しよう」にある孤立、貧困、栄養、食品ロスや地域との支え合い等の重要性を紹介するものとした。

第3回目「企業と SDGs」では、企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility: CSR）や非財務情報を重視する ESG（Environment, Social, Governance: 環境、社会、ガバナンス）等を含めた SDGs 経営に関する講義内容とした。特に、企業において重視される「目標12：つくる責任、つかう責任」を中心としながら、食べ残しを飼料にしてゴミ問題等の解決を図る株式会社日本フードエコロジーセンターの事例、SDGs17のすべての目標に取り組んでいる千葉県富国生命保険相互会社の省エネ・省資源、役員による山林保護活動や健康経営の内容、そして、松戸市にある株式会社新松戸造園が地域に根付く造園会社として掲げている「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」、「目標8：働きがいも経済成長も」、「目標11：住み続けられるまちづくりを」に関する中身とした。

第4回目「海外と SDGs」では、「開発途上国におけるエビ養殖と私たちとの関わり」と筆者が実施してきた「バングラデシュの天然蜂蜜支援事業（3年間）」を紹介する内容とした。講義の最初には、各参加者の日頃の食の消費行動について見つめてもらう「買い物ランキング（地球の木、2010）」というワークシートを取り入れた。日本は、インド、ベトナム、インドネシア等の開発途上国を中心とした海外から、91.5%のエビを輸入している（帝国書院、2018）。そして、エビの養殖場は森林を伐採してつくられ、労働者は安い給料で働かされている⁽¹¹⁾。この中で、私たちができることは、例えば、水産資源の持続的利用や環境に配慮した漁業・養殖業である水産エコラベル認証⁽¹²⁾の商品を購入することで、「目標8：働きがいも経済成長も」、「目標14：海の豊かさを守ろう」や「目標15：陸の豊かさも守ろう」等との関わりを学んでもらう内容とした。また、SDGsのスローガンである「誰一人取り残さない」の視点から開発途上国の暮らしぶりを理解してもらうため、バングラデシュの森の中で天然蜂蜜を

市民社会におけるSDGs学習の普及啓発に関する考察

採取する人たちの貧困削減と環境保全の両立を図る活動内容を取り入れた。その取組みでは、植林等を通じて森林を保全しながら天然蜂蜜の採取量を増加させ、その商品開発・販売を行って地域住民の生計向上と環境保全を図るものである。そして、「目標1：貧困をなくそう」、「目標2：飢餓をゼロに」、「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」、「目標8：働きがいも経済成長も」、「目標15：陸の豊かさを守ろう」や「目標17：パート

ナーシップで目標を達成しよう」等との関連性を参加者へ解説した。

まとめのパートとなる第5回目「アクション・プラン作りと発表」では、講座第1～4回目までのSDGsとの関わりで重要であった内容等をスクリーンに映し、講座全体の復習を取り入れた。その後、各参加者にアクション・プランを作成してもらう前に、各個人でブレインストーミングを行うセッションを組み込んだ。そこでは、自分の勤

●本研究の目的

松戸市の市民向けSDGs基礎講座の開催を通じて、市民社会におけるSDGs学習の普及啓発を浸透・定着させていくための学習の構成内容、進め方、課題や今後の方向性を検討する。

●SDGs学習の内容

| 学習構成 | 学習テーマ | 主な学習内容 | 学習の目標 | |
|------|-------|--------------------|---|--|
| 導入 | 第1回目 | SDGsとは? | 2030SDGsカードゲームの体験。 | 2030SDGsカードゲームを通じて、SDGsを環境、社会、経済のバランスの視点で理解する。 |
| 展開 | 第2回目 | 地域社会とSDGs | ①高齢者の消費者被害防止活動とSDGs。 ②松戸のみどりを守り・ふやす里山保全活動。 ③Withコロナ時代の子ども食堂とフードバンク。 | 私たちの身近な場所で行われている様々な地域社会活動が、SDGsの各目標につながっていることを理解する。 |
| | 第3回目 | 企業とSDGs | ①株式会社日本フードエコロジーセンター。 ②富国生命保険相互会社(千葉県)。 ③株式会社新松戸造園(松戸市)。 | 企業がSDGs達成に向けてどのように取り組んでいるのかについて、事例を通じ理解を深める。 |
| | 第4回目 | 海外とSDGs | ①エビ養殖場と私たちの暮らしとのつながり。 ②バングラデシュ天然蜂蜜支援事業。 | エビと日本人との関わりや、開発途上国の暮らしぶりの内容および国際協力活動を通じ、SDGsとのつながりについて理解を深める。 |
| まとめ | 第5回目 | SDGsアクション・プラン作り、発表 | 自分の勤務先、もしくは自分が所属している地域活動の組織(グループ)や個人の日常生活に関するSDGsアクション・プランの作成、発表。 | 講座での学びを活かし、自分自身がどのような暮らしや活動を実践しているか、あるいは目指すのか、それがSDGsのどの目標とつながるのかに関するアクション・プランを作成、発表することで、SDGsへの当事者意識を高める。 |

※学習を進める上での留意点:

- ・SDGsの17の目標は地域の課題と関連し、つながっていることの重要性を強調する。
- ・各回では、質問や振り返りの時間を設定する。
- ・各回の冒頭では、前回の内容を簡潔に振り返ってから進める。
- ・第5回目の講座では、第1～4回の全体内容の振り返りと、各参加者がアクション・プランづくりを進めるに当たったのブレインストーミングを行ってから、SDGsの行動計画を作成する。

●調査の進め方

調査方法

- ①参加者への事前アンケート結果。
- ②第1～4回の講座で参加者に書いてもらった振り返りシートの内容。
- ③第5回目の参加者によるアクション・プランの作成内容。
- ④講座全体の参加者アンケート結果。



分析方法

上記①～④の各調査の意見の整理・集約による定性分析。

図5 調査研究の全体像

出所:筆者作成。

務先、もしくは自分が所属している地域活動の組織（グループ）や個人の活動・問題点と SDGs とのつながりについて A3 用紙に簡潔に書きだし、それぞれ発表をしてもらうことにした。それを踏まえ、各参加者は、勤務先・所属している団体（グループ）や個人の日常生活で実施可能な SDGs の行動計画に関し、つながりの会で用意したフォーマットに沿って作成と発表を行った。

(3) 調査・分析方法

今回の調査研究の進め方は、①参加者への簡易な事前アンケート結果、②第1～4回の講座で参加者に書いてもらった振り返りシートの内容、③第5回目の参加者によるアクション・プランの作成内容、④講座全体の参加者アンケート結果により、参加者の SDGs 学習の理解度、考え方や学習の進め方の課題について、図5にある事前に設定した学習の目標と照らし合わせながら各調査での意見を整理・集約して考察を行った⁽¹³⁾。

3. 結果・考察

(1) 参加者への事前アンケートの考察⁽¹⁴⁾

今回の参加者からは、Google フォームによる事前申込みの際に、SDGs の言葉の認知度と本講座に期待することを聞いた。SDGs の認知度としては、全員がその言葉を聞いたことがあると回答した。また、本講座への期待について意見集約すると、「SDGs に関心があり、その基礎について学びたい」、「SDGs と日常生活や松戸で行われている活動とのつながりについて学習したい」や「SDGs の必要性を感じて申込んだ」が挙げられた。今回の参加者から言えることは、SDGs の基礎を学ぶと共に、地域（松戸市）の視点から SDGs を考えたいというものであった。チラシ等から講座の目的である松戸版 SDGs の普及啓発の意図を参加者へ十分に伝えたことで、目的意識を共有して講座を進めることができた。

(2) 第1～4回の講座における参加者の振り返りシートの分析

振り返りシートは、第1～4回の各講座の終わりに、「①学んだこと」、「②難しく感じたところ」と「③その他（感想）」の項目をいれた A4 用紙に自由記述をしてもらった⁽¹⁵⁾。

参加者の振り返りシートの主な意見内容は、表1-1、1-2、1-3、1-4である。第1回目「SDGs とは？」で行った2030SDGs カードゲームの体験に関する振り返りシート（表1-1）の結果を見ると、学んだこととしては、環境、社会、経済の問題のつながりを考え、バランスをとりながら進めていくことの重要性和その難しさについて理解を深めたと言える。ゲームのルールが少し複雑であったことや市民の受け止め方に関する懸念も意見として挙げたが、楽しみながら SDGs の全体像を理解することができたという視点では、導入のプログラムとして相応しいものと考えられた。以上から、導入の学習目標として取り上げた「2030SDGs カードゲームを通じて、SDGs を環境、社会、経済のバランスの視点で理解する」は、達成できたものと考えられた。

第2回目「地域社会と SDGs」では、高齢者の消費者被害の問題、松戸の里山保全活動や子ども食堂およびフードバンクのテーマと SDGs に関する内容を各講師に発表してもらった。今回の振り返りシート（表1-2）の結果からは、当日の参加者は3名と少なく、内容に関する記述が若干少なかったため十分な分析材料とはならないかも知れないが、どのように自分事として地域の課題を捉えていくのか、また、自分に何ができるかという動機付けに向かわせることができた。また、地域の活動が SDGs の各目標とつながっていることについて書いてくれた参加者もいたことから、身近に存在する課題について当事者意識を持って自分のできることを考えてもらう機会とすることができた。SDGs の具体的な展開例を理解するためには、市民の身近な活動を結び付けて考えてもらうことで、第2回目の学習目標である「私たちの身近な場所で行われている様々な地域社会活動が、

市民社会における SDGs 学習の普及啓発に関する考察

SDGs の各目標につながっていることを理解する」を達成できたと言える。

第3回目「企業とSDGs」では、企業のSDGs経営に至るまでの歴史的背景とその取組み等を含め、千葉県や松戸市のSDGsに関する事例を取り

入れた講義内容であった。表1-3にある通り、学んだことについては、多様な視点から意見がだされたが、持続可能性の視点から企業（生産者）も消費者も一体となって、地球温暖化や食品ロス等の具体的な課題に自分事として取り組んでいくこ

表1-1 第1回「SDGsとは？」：参加者の主な振り返りシートの内容

| 項目 | 内容 |
|-------------|--|
| ① 学んだこと | ・ SDGsの概要が理解できた。 |
| | ・ SDGsの活動の着眼点は、「経済」、「環境」、「社会」のバランスが重要で、どれか一つだけ突出していても上手くいかない。 |
| | ・ 社会はつながっていること。 |
| | ・ 無自覚な消費・行動が社会のバランスを崩してしまう。 |
| | ・ 無責任な行動で、他人に迷惑をかけてしまうこともある。 |
| | ・ 無自覚なことが引き起こしてしまう可能性について、無知から生まれる社会システムの強化措置について考えさせられてしまった。 |
| | ・ グローバルな活動なので自分のエリアだけの活動では上手くいかないことから、お互いに助け合う必要がある。 |
| | ・ SDGsの目標を達成するためには、どこかひとつの国、どれか一つの分野の取り組みでは難しいことが、カードゲームを通じて理解できた。 |
| ② 難しく感じたところ | ・ お互いを知り、相互の強みを生かしながら全体を見ていくバランス感覚も必要と感じた。 |
| | ・ 自分の目標達成に一生懸命となり、プロジェクトの内容は確認せずに、得られる点数のみに夢中となってしまった。 |
| | ・ ゲームは、全く何も知らない市民と取り組んでみるのも普及啓発になると思ったが、どのように受け止められるか、また、どのようにフォローしていくかについて考える必要がある。 |
| ③ その他(感想) | ・ ゲームのルールが少し難しく感じたところもあった。 |
| | ・ 本ゲームはとても良くできており、大人だけでなく、学生等にも適していると思った。 |
| | ・ 楽しんで学ぶことができ良かった。 |

出所：参加者の振り返りシートより筆者作成。

表1-2 第2回「地域社会とSDGs」：参加者の主な振り返りシートの内容

| 項目 | 内容 |
|------------|--|
| ①学んだこと | ・ SDGsの基礎的な部分を学習した。 |
| | ・ 目標に合わせて活動するのではなく、活動を目標に向かわせていくという姿勢を学んだ。 |
| | ・ 消費生活サポーター養成講座で学んでみたい。 |
| | ・ 松戸での里山保全活動のように市民が集まって活動することの大切さを学んだ。 |
| | ・ コロナ禍における子ども食堂とフードバンクの果たす役割について知ることができた。 |
| ②難しく感じたところ | ・ 自分が一歩踏み出すことの難しさ。 |
| | ・ 自分に何ができるのかを考えさせられた。 |
| ③その他(感想) | ・ 一人ひとりの活動がSDGsにつながっていることが分かった。 |

出所：参加者の振り返りシートより筆者作成。

市民社会における SDGs 学習の普及啓発に関する考察

表 1-3 第 3 回「企業と SDGs」：参加者の主な振り返りシートの内容

| 項目 | 内容 |
|------------------------------------|---|
| ①学んだこと | ・ 企業のSDGsの取組み。 |
| | ・ 中小企業でもSDGsを意識した取組みがあること。 |
| | ・ 消費者も責任があること。 |
| | ・ 「もったいない」運動の大切さ。 |
| | ・ フェアトレードを意識した買い物。 |
| | ・ 日本フードエコロジーセンターの取組み。 |
| | ・ SDGsに対する理解が深まった。 |
| | ・ プラスチックが環境に与える影響の大きさを痛感した。 |
| | ・ SDGsは国や企業が考えて進めるのではなく、地域に住んでいる一人ひとりが工夫して行動することが大切。難しく考えずに具体的に身近で気軽に行えることを一人ひとりが実践することが重要。 |
| | ・ 「共通言語」としてのSDGsを具体例で理解できた。各人がそれぞれの立場で考え、実行する必要がある。 |
| ②難しく感じたところ | ・ SDGsという言葉が最近聞いたような気がしたが、その言葉は2015年からであったのが驚いた。 |
| | ・ 地球温暖化だけでなく、持続可能というキーワードでSDGsを捉えていることを知った。 |
| | ・ 企業の立場を考えることは難しいと感じた。 |
| | ・ 官民の連携をどのように進めるのか、「タテ割り」をどのように超えるのかが課題。 |
| ③その他(感想) | ・ 食品ロスのニュースは良く耳にするが、具体的に何ができるのか思いつかなかった。何か具体的な事例があると今後の日常生活でも実践しやすい。 |
| | ・ 自分で何をやるのかを考える必要があると思った。 |
| | ・ 自分でできることからやってみるのが大切。 |
| | ・ 企業の実際の取組みが紹介されていて良かった。 |
| | ・ 食べものを大切にしたいと思う。 |
| ・ SDGsをもっと多くの人に知ってもらうための勉強会があると良い。 | |
| ・ SDGsは全ての人に関係する、「共通言語」であると実感できた。 | |

出所：参加者の振り返りシートより筆者作成。

表 1-4 第 4 回「海外と SDGs」：参加者の主な振り返りシートの内容

| 項目 | 内容 |
|------------|---|
| ①学んだこと | ・ エビの話は全く知らなかったもので、驚きであった。 |
| | ・ 集約型のエビ養殖やバングラデシュでの天然蜂蜜産業の問題を良く理解することができた。 |
| | ・ 日本のエビの輸入割合が増えている。 |
| | ・ 水産エコラベル認証を知った。 |
| | ・ なぜ水産エコラベル認証が広まらないのかを考えるきっかけとなった。 |
| | ・ 買い物ランキングが面白かった。 |
| | ・ マングローブのことをもっと知りたいと思った。 |
| | ・ バングラデシュのことが良く分かった。 |
| | ・ バングラデシュの天然蜂蜜の話は珍しく、面白かった。 |
| | ・ 日頃のニュースや新聞では知ることができない話が聞けて良かった。 |
| ②難しく感じたところ | ・ 地域性もそうであるが、「自分事」として考えることが難しいと感じた。どうやったら当事者意識を持てるのか、考えさせられるところである。 |
| | ・ 「経済発展」と「環境保全」の両立は、たいへん難しいと感じた。水産エコラベル認証制度の認知度も低く、一般の人が日常生活の中でどのようにしてその両面に貢献していけば良いのか難しく感じた。 |
| | ・ 日本の食料は輸入に依存していることをあらためて考えていく必要がある。 |
| | ・ 天然蜂蜜支援事業の持続性の確保には、難しい側面もあるのではないかと思った。 |
| ③その他(感想) | ・ SDGsは地域にコツコツと取組まないといけない。 |
| | ・ 意見交換する時間がもう少しあると良かった。 |
| | ・ SDGsについて理解を深めることが大切である。 |
| | ・ バングラデシュという国に対して興味がわいた。 |

出所：参加者の振り返りシートより筆者作成。

との必要性を感じ取った参加者が多かったと言える。難しく感じたことは、企業の立場を考えながら、自分は具体的に何ができるのかということや官民の連携のあり方等を指摘していた。行政を含め、企業と消費者がSDGsを通じたつながりの機会を創出していくことがより求められる。以上から、第3回目の学習目標である「企業がSDGs達成に向けてどのように取り組んでいるのかについて、事例を通じ理解を深める」は、達成できたと考えられた。

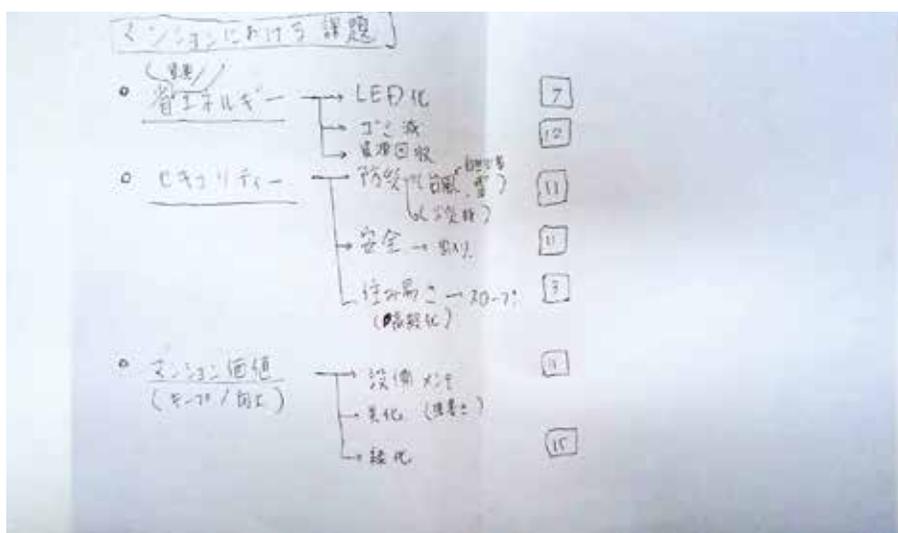
第4回目「海外とSDGs」では、エビ養殖と私たちとのつながりに関する説明や、開発途上地域(バングラデシュ)の人々の暮らしぶりについて、天然蜂蜜支援事業から解説を行った。表1-4にある通り、学んだことについては、集約的なエビ養殖がもたらす環境、社会の問題や水産エコラベル認証の普及啓発が日常生活の中で十分に浸透・定着していないこと、並びにバングラデシュにおける天然蜂蜜採取を通じた貧困削減、そして、経済発展と環境保全の両立を図ることの難しさを参加者は考察できた。受講生は、海外とSDGsとのつながりでも、自分として何ができるのかについてその難しさも含めて考えるきっかけにすることが

できたことは、学びの成果の一つであると言えよう。以上から、第4回目の学習目標である「エビと日本人との関わりや、開発途上国の暮らしぶりの内容および国際協力活動を通じ、SDGsとのつながりについて理解を深める」は達成できた。

第1~4回のSDGs基礎講座における参加者の振り返りシートの内容を小括すると、参加者のSDGs学習内容の理解については、ローカルおよびグローバルな事例の内容や課題を取り入れ、そのつながりについてSDGsという枠組みを通じて深めることができた。そして、参加者は個人、組織、地域社会とのつながりから当事者意識を持ってそれらの内容を考えたことで、SDGsの複眼的且つ横断的な課題の捉え方や、自身のアクション・プランを作る上での多様な示唆を得ることができたと考えられた。また、各講師は松戸という自分の暮らす街からSDGsの視点で具体的な取り組みを解説することで、SDGsの内身が参加者へより明確に伝わり、SDGsの理解が促進された。

(3) 第5回目のアクション・プランの作成内容に関する考察⁽¹⁶⁾

参加者がアクション・プランを作成する前に、



(写真撮影：つながりの会)

写真3 SDGs基礎講座第5回目：2020年10月25日「SDGsアクション・プラン作り、発表」マンションの課題とSDGsとのつながり



(写真撮影：つながりの会)

写真4 SDGs 基礎講座 第5回目：2020年10月25日「SDGs アクション・プラン作り，発表」
病院や家庭における課題とSDGs とのつながり

まずは、自分の取り上げる行動の内容、課題等とSDGsとの関わりについてA3の用紙に自由に書き出してもらった。写真3は、マンションにおける課題とSDGsを結びつけたものであり、写真4は職場の病院や家庭とSDGsをつなげた内容である。写真3、4から分かるように、各参加者は、ブレインストーミングを行うことで、自分の取り組む内容とSDGsとの関わりについて深く省察することができた。

アクション・プランのシートの内容については、勤務先、組織（グループ）や個人とSDGsとの関わりを考えながら、「どのようなことができるのか（もしくは既にやっているのか）」、そしてそれはSDGsのどの目標と関連があるのかについて4つ書き出してもらい、関連すると思われるSDGsのシールを貼ってもらった。なお、各参加者が作成するアクション・プランについては、勤務先・所属している団体（グループ）や個人の日常生活における2種類のシート作成を依頼し、必ずどちらか一つを選ぶこと、可能であれば両方をつくるようにした。その結果、勤務先・所属している団体（グループ）のアクション・プランは4

つ、個人の日常生活に関するものは5つ出揃った。

図6-1～4（勤務先・組織〈グループ編〉）と図6-5～9（個人編）は、参加者が作成したアクション・プランの内容である。

図6-1～4（勤務先・組織〈グループ編〉）のアクション・プランでは、各参加者はSDGsの17の目標の相互のつながりを考えながら作成した。「提示した内容を既に行っている」と回答した参加者も多く、SDGsと関わりのある課題に対して高い意識を持って取り組んでいた。

ここでは、環境保全、サステナビリティ、健康・福祉やまちづくり等の取組みを考えた参加者が多かった。SDGsの目標としても、「目標12：つくる責任、つかう責任」、「目標13：気候変動に具体的な対策を」、「目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「目標3：すべての人に健康と福祉を」や「目標11：住み続けられるまちづくりを」を中心に、SDGsの他の目標とのつながりを考察していた。目標3、7、11、12や13は、2020年における日本のSDGs達成ランキングで課題が残っている目標であることから、松戸

市民社会における SDGs 学習の普及啓発に関する考察

| No. | わたしの行動・活動 | チェック | SDGsとのつながり (ロゴシールを貼る) |
|-----|--|---|---|
| 1 | コスト削減だけでなく「つくる責任、つかう責任」をより意識した「ペーパーレス化」。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |  |
| 2 | 会社で進めている「アフリカのトイレ支援」。ユニセフの活動にも募金等を通じて協力する。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |  |
| 3 | 「ジェンダー平等」を目指し、女性で障害者雇用に理解と協力をする。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |  |

図 6-1 勤務先・組織（グループ）のアクション・プラン①

出所：参加者のアクション・プランより筆者作成。

| No. | わたしの行動・活動 | チェック | SDGsとのつながり (ロゴシールを貼る) |
|-----|---|---|---|
| 1 | サステナビリティ環境に与える負荷を減らし、工場の使用電力は100%風力。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |  |
| 2 | BPA ^{※1} フリー BPAを含まないパッケージ素材。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |  |
| 3 | 高い生分解性とグレイウォーター ^{※2} 。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |  |
| 4 | サークルやイベントで体と環境の汚染をストップさせるための知識共有と仲間づくり。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |  |

※1 BPA（ビスフェノールA）：健康に害があるものとして報告されている化学物質。

※2 グレイウォーター：「中水道」と呼ばれ、台所、お風呂、洗濯機の排水等を示す。

図 6-2 勤務先・組織（グループ）のアクション・プラン②

出所：参加者のアクション・プランより筆者作成。

| No. | わたしの行動・活動 | チェック | SDGsとのつながり (ロゴシールを貼る) |
|-----|---|---|---|
| 1 | 子ども食堂 貧困撲滅、食を通じて環境問題を考える。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |  |
| 2 | オレンジ協力員 [※] 住み続けられるまちづくり すべての人に健康と福祉を。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |  |
| 3 | 献血 血液が必要な人に安定供給。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |  |
| 4 | 外国人のための勉強会 外国人にも公平で質の高い教育の機会を提供する。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |  |

※オレンジ協力員：松戸市の認知症サポーター養成講座を受講・登録している人たちで、日常生活の中で高齢者に対して積極的に声をかけるのが主な役割である。

図 6-3 勤務先・組織（グループ）のアクション・プラン③

出所：参加者のアクション・プランより筆者作成。

市民社会における SDGs 学習の普及啓発に関する考察

| No. | わたしの行動・活動 | チェック | SDGsとのつながり (ロゴシールを貼る) |
|-----|---|---|---|
| 1 | マンション 省資源／エネルギー ゴミ削減、資源回収の推進。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |  |
| 2 | マンションのセキュリティの確保 自然災害、火災時の行動、計画見 直し、訓練。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |  |
| 3 | マンション価値 (1) 高齢化への対応 (スロープ、手す り、バリアフリー)。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |  |
| 4 | マンション価値 (2) 美化・緑化の推進。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |  |

図 6-4 勤務先・組織 (グループ) のアクション・プラン④

出所：参加者のアクション・プランより筆者作成。

市民の視点からもこれらの目標の達成を意識した取組みの促進が重要であると確認できた。

参加者は、本講座による学びの成果を活かし、SDGs の 17 の目標と関連のある課題について勤務先・組織 (グループ) で取り組むことのできるアクション・プランを作成した。参加者が SDGs を自分事として捉える姿勢が、講座での学習やアクション・プランを通して高まり SDGs 思考能力の向上へとつながったことは、本講座での SDGs 学習成果の一つと言える。

次に、個人のアクション・プラン (図 6-5~9) について考察する。個人では、「既に取り組んでいる」や「これから取組む」という回答は、半々の傾向があった。アクション・プランの内容は個々人の興味・関心に基づいて多様であり、参加者は SDGs の 17 ある目標のつながりを考えながらその内容を検討していた。

ここでは、勤務先・組織 (グループ) のアクション・プラン同様に、「目標 12：つくる責任、つかう責任」、「目標 13：気候変動に具体的な対策を」、「目標 7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、「目標 3：すべての人に健康と福祉を」や「目標 11：住み続けられるまちづくりを」を中心として、SDGs の他の目標と結びつけながら環境保全、サステナビリティ、健康・福祉やまちづくりについて取り上げた参加者が多かった。また、2020 年における日本の SDGs 達成ランキ

ングで最大の課題として残っている「目標 14：海の豊かさを守ろう」のシールが比較的多かったことに加え、個人グループの特徴のある内容として、「目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう」では、「SDGs を家族の話題として取り上げ、日常生活の中で考えていく」、「目標 5：ジェンダー平等を実現しよう」では「人権イベントの開催」と「多様性を理解するようこころがける」や、様々な SDGs の目標と関連し合う「お金の使い方を考える」等が挙げられた。

参加者は、アクション・プランの中で自分と日常の生活を結びつけ、その中でできるところから取り組んでいくことを現実的に捉えて作成していたことから、実際の SDGs の目標達成へ向けた行動への期待が持てる内容となった。

以上から、勤務先・組織 (グループ) や個人のアクション・プランの内容を小括すると、第 5 回目の学習目標である「講座での学びを活かし、自分自身がどのような暮らしや活動を実践しているか、あるいは目指すのか、それが SDGs のどの目標とつながるのかに関するアクション・プランを作成、発表することで、SDGs への当事者意識を高める」は達成できた。各参加者は、アクション・プランを作成する前に、A3 用紙でブレインストーミングを行って SDGs の視点や姿勢を整理したことで、アクション・プランシートにまとめやすくなり、具体的な行動計画の内容に落とし込

市民社会におけるSDGs学習の普及啓発に関する考察

むことができたと考えられる。身近な日常生活、話題や誰でも知っている内容からSDGsへの視点を向けていくことで、一般市民の当事者意識の醸成につなげることができるだろう。

(4) 講座全体のアンケート内容の分析⁽¹⁷⁾

第5回目の講座終了後に、講座全体の評価アンケートを参加者に書いてもらった(表2)。

Q1では、5人が「とても有意義」、2人が「有意義」と回答したことから、講座全体としての満

| No. | わたしの行動・活動 | チェック | SDGsとのつながり (ロゴシールを貼る) |
|-----|------------------------------------|---|--|
| 1 | フェアトレード商品を積極的に購入して開発途上国の経済発展を支援する。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |  |
| 2 | SDGsを家族の話題にして日頃から意識した活動をする。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |  |

図 6-5 個人編のアクション・プラン①

出所：参加者のアクション・プランより筆者作成。

| No. | わたしの行動・活動 | チェック | SDGsとのつながり (ロゴシールを貼る) |
|-----|------------------------|---|---|
| 1 | 人権イベントの開催。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |  |
| 2 | タバコフィルターのゴミを減らす(禁煙推進)。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |  |

図 6-6 個人編のアクション・プラン②

出所：参加者のアクション・プランより筆者作成。

| No. | わたしの行動・活動 | チェック | SDGsとのつながり (ロゴシールを貼る) |
|-----|--------------------------------|---|--|
| 1 | 買い物の時は、マイバッグ外出の時は、マイボトル。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |  |
| 2 | 子ども食堂のボランティアで、今はお米の配布。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |  |
| 3 | サークルで無添加、グルテンフリーお菓子とクリーンな暮らし方。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |  |
| 4 | 宮古の海をきれいにする隊の活動や、サンゴを育てる取組み。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |  |

図 6-7 個人編のアクション・プラン③

出所：参加者のアクション・プランより筆者作成。

市民社会における SDGs 学習の普及啓発に関する考察

| No. | わたしの行動・活動 | チェック | SDGsとのつながり (ロゴを貼る) |
|-----|------------------------|---|--|
| 1 | 使用しない電化製品のコンセントは抜く。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |    |
| 2 | ゴミの分別を適切に行っている。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |    |
| 3 | 「もったいない」精神をもち、日々活動をする。 | している <input checked="" type="checkbox"/> これから <input type="checkbox"/> |    |

図 6-8 個人編のアクション・プラン④

出所：参加者のアクション・プランより筆者作成。

| No. | わたしの行動・活動 | チェック | SDGsとのつながり (ロゴを貼る) |
|-----|---------------------------------------|---|---|
| 1 | 必要最低限の暮らしを実現する。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |     |
| 2 | あまり物を捨てずに利用する（フードバンク、リサイクルショップ）。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |      |
| 3 | 多様性を理解するように心がける。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |    |
| 4 | お金の使い道を考える（募金、銀行・投資先、どのメーカーの製品であるか等）。 | している <input type="checkbox"/> これから <input checked="" type="checkbox"/> |      |

図 6-9 個人編のアクション・プラン⑤

出所：参加者のアクション・プランより筆者作成。

足度は高かったと言える。「とても有意義だった」のアンケートの理由では、グローバルそしてローカルに SDGs の抱える課題について学ぶことができ、自分の日常生活と SDGs とのつながりについて理解を深めることができたからであった。

また、各講座の感想については、振返りシートでもその内容を聞くことはできていたが、あらためて Q2 の a で意見を書いてもらった。その主な内容を集約すれば、2030 SDGs カードゲームの体験型学習、松戸という地域性に特化した上での地域社会と企業の SDGs の取組みや、海外の実践的な活動の紹介等によって分かり易い内容を提供

することができたと考えられる。最後に、アクション・プランづくりを取り入れることで、SDGs をより自分事として捉えてもらえることに繋げることができた。

Q2 の b における講座の改善点では、働いている人が 5 回の連続講座へ参加するのは時間的に難しい部分があること、毎回の講義での振返りシートの記入時間を確保することや、SDGs への参加を広く周知していくための広報手段等、運営面での課題がだされた。講座スケジュールの見直しや、SDGs というものを幅広く松戸市民へ発信していくため、SDGs をよりかみ砕いた分かりやす

市民社会における SDGs 学習の普及啓発に関する考察

表2 講座全体のアンケート結果の主な内容

| |
|---|
| <p>Q1. 今回の講座はあなたにとって「有意義」でしたか？ 1つだけ○をつけてください。</p> <p>とても有意義だった(5人) 有意義だった(2人) そうは思わない(0人) 全く思わない(0人)</p> <p>とても有意義と回答した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今までSDGsの内容は知らなかったが、今回の講座を通じて松戸市、日本や世界での具体的な活動を知ることができた。 ・ 全ての課題はSDGsの目標に取れんされるのが分かった。一人ひとりが自分の問題として捉えていくことが重要である。 ・ 多くの人の意見を聞くことができた。 ・ 自分にとっては初めてSDGsについて学ぶ機会だったので、どの講義も分かりやすく、自分の生活に身近に引き付け考えることができた。 <p>有意義と回答した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SDGsについて知らないことを学習できた。 |
| <p>Q2. 講座全体の内容についてお聞かせ下さい。</p> <p>a. 受講した講座の感想をお聞かせ下さい。</p> <p>●第1回「SDGsとは？」講座全体の概要説明、2030 SDGs カードゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ もっとカードゲームをやりたいかった。 ・ 2030SDGsカードゲームがとても良かった。机上で聞くだけでなく、参加している人の思いや意識も理解することができた。「経済」と「環境」とのバランスがとても難しく、その両立を図ることが大切であると理解できた。 ・ 協働することの意味を体感でき、面白かった。 <p>●第2回「地域社会とSDGs」高齢者の消費者被害防止、松戸の森林・里山保全活動、子ども食堂・フードバンクと地域とのつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども食堂に参加しているので、とても参考になった。 ・ 分野ごとに目標を考えると同時に、分野の取り組みでどう目標にアプローチするのか考えることも重要である。 <p>●第3回「企業とSDGs」SDGs 達成に向けた企業の取組み、千葉県や松戸市の企業の具体的な事例紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての企業がSDGsを目標にすれば、この世界は少し良くなるのではないかと考えた。 ・ 食品の再利用について知れた。 ・ 前職の活動との対比で、考えることができた。 ・ SDGsのバッジをつける人が増えている意味がわかり、心強い感じがした。 <p>●第4回「海外とSDGs」開発途上国のエビ養殖と私たちのつながり、バングラデシュ天然蜂蜜支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開発途上国を支援しながらSDGsを推進する手法がとても面白かった。 ・ エビ以外にも海外から輸入しているものについて考えることができた。 ・ グローバルな視点で考えると、日本ができることはたくさんあると思った。 <p>●第5回「SDGs アクション・プラン作りと発表、まとめ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者のアクション・プランを見せてもらい、たいへん励みになった。 ・ アクション・プランを作って考えることができた。 ・ SDGsを身近なものとして考えることができた。 <p>b. 講座全体について改善点等、他にご意見がありましたら、記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1~4回の講座の終りに取組む振り返りシートを書く時間が少なかった。 ・ 第5回の最終回しか参加できず、本講座のこともっと早く知りたかったが、5回目ははじめに講座全体のおさらいがあったので良かった。 ・ 連続講座の開催は、仕事をしている世代からすると参加するのがたいへんである。学生と連携してできると楽しいかもしれない。 ・ 多くの人が参加できるように、周知・PRの方法を考へほしい。 |
| <p>Q3. 今後、SDGsについてどのようなことについて知りたい、もしくは学んでみたいと思いますか。自由にお書き下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さらに具体的な活動を知りたい。自分と家族が参加できるイベントや活動があれば、ぜひ参加したいので教えてほしい。 ・ もっとSDGsの具体例を知り、自分でもできることや、参加できることがあればやってみたい。 ・ 2021年はどれだけSDGsが進んでいるのかについて、特に、具体的な活動について知りたい。 ・ アクション・プランを増やすための学習をしたい。 ・ 行政、企業、個人が連携して活動することが重要であるため、具体的な事例が積みあがることを期待したい。 ・ 子どもたちにSDGsを知ってほしいと思った。 ・ 自分がどんなことを中心に取り組んでいくかをみつけていけるよう、様々なことを広く知りたい。 |
| <p>Q4. 今後のご自分の行動や活動にSDGsの視点をより取り入れることができると思いましたが、ありましたら、それはどんなことですか。可能な範囲でいくつでもお書きください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会社・・・「つくる責任、つかう責任」をさらに意識した活動、ペーパーレス等。 ・ 個人・・・「フェアトレード」の商品を購入することで、開発途上国の活動を支援。 ・ 基本的に、「もったいない」を心がけて生活していきたい。 ・ もっとみんなで話し合いを行い、SDGsが広く周知していければ良い。 ・ 自分の生活を見直したい。 ・ 全ての行動がSDGsに関連していると感じた。今後、これにメリハリをつけることが重要である。 ・ 物の大切さを子どもたちに伝えていきたい。 ・ 買い物の仕方、ペットボトルに頼らない、エコバックを持ち歩く。 |
| <p>Q5. その他、ご意見・感想がありましたら、記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民向け基礎講座は、非常に素晴らしい取組みで満足度も高い。 ・ 市民向けではなく「学校での課外授業」や「企業用のワークショップ」でもっと幅広い人たちに体験、学べる機会があれば良いと思う。特に、2030SDGsカードゲームを実施すれば盛り上がり、理解も深まると思う。 |

出所：参加者の講座全体アンケートの結果より筆者作成。

いかたちでのPRを考えていく必要がある。

Q3は、今後のSDGsのニーズについての質問であるが、参加者からはSDGsとして取り組むことのできるイベント・学習の開催、アクション・プランの幅を広げていきたいという内容や、子どもへのSDGs教育の重要性について言及する回答があった。SDGsはどの年代にも関わる共通事項であり、年代に応じた学習の内容や進め方には工夫が必要であるが、次世代を担い持続可能な社会づくりをけん引していく子どもたちや若い世代へのSDGs学習の必要性は高いと言える。

Q4は、アクション・プランと関連のある質問である。参加者からの意見を整理すると、SDGsを通じて生活を見直し、物を大切にすることを培うために、「目標12：つくる責任、つかう責任」等の視点から私たちの日々の生活を捉えなおしていくことが言及されていた。参加者は、身近な生活の視点からの行動の必要性を高く認識していた。

Q5では、その他の意見・感想として設けた項目であるが、本講座の満足度の高さや、2030SDGsカードゲームの体験型学習の促進に関する意見がだされた。

以上から、講座全体のアンケート結果を小括すると、参加者の本講座に対する意義や満足度は高く、松戸市民社会においてSDGs学習を継続していくことの重要性が確認できた。また、経済、社会や環境のバランスをとることの難しさやSDGsの全体像を理解するためには、2030SDGsカードゲームがSDGs学習の導入として相応しいアプローチの一つであると言える。さらに、本研究の中で何度も言及してきたことではあるが、市民社会におけるSDGsの理解を促進させていくためには、身近な生活環境や私たちの暮らしと関わるグローバルな視座を含めて学習内容を提供し、特に、その地域性に特化した課題や取組みに配慮しながら考察を深め、SDGsを自分事として捉えてもらうためのアクション・プランとしてまとめていくやり方が有効であると考えられた。

4. 結論

本研究は、松戸市民を対象としたSDGs基礎講座（5回）の普及啓発プログラムの開発とその開催により、SDGs学習の構成内容、進め方、参加者の理解度や捉え方等をアンケートの調査および

表3 市民社会におけるSDGs学習の進め方～松戸市を事例として

| ●SDGs学習の構成内容とそのポイント | |
|----------------------|--|
| 導入 | 「2030SDGsカードゲーム」。 →SDGsが特徴としている経済、社会、環境のバランスをとることの難しさやSDGsの全体像について理解する。 |
| 展開 | 「地域社会、企業、海外とのつながりとSDGs」。 →SDGsの17の目標と関連した身近な地域社会、企業や海外とのつながりに関する具体的な取組みから、SDGsの取巻く課題や各目標との結びつきに関する複眼的且つ横断的な視点を培う。 |
| まとめ | 「アクション・プランの作成と発表」。 →参加者のSDGsに対する学びの内容を浸透・定着させ、SDGsに対して当事者意識を高める。 |
| ●SDGs学習の理解度を高めるための工夫 | |
| ・ | 身近な日常生活に関する内容、地域性のある話題や市民に馴染みのある取組み等を取り上げる。 |
| ・ | SDGsの17の目標の相互の関連性を提示する。 |
| ・ | グローバルな視座の内容を提供し、生活とのつながりを考察する。 |
| ・ | 講師の選定は、地元で実際に活動をしている人を招聘する。 |
| ●SDGs学習の課題 | |
| ・ | SDGs学習を定着させていくための効果的・効率的な講座内容の検討・見直し。 |
| ・ | フィールドワークやスタディツアー等、五感を通じた現場体験型SDGs学習内容の検討。 |
| ・ | 市民社会の中でSDGs学習をより促進させていくための市民参加型SDGsネットワークの構築・拡大や、SDGsをけん引するリーダーの養成。 |

出所：筆者作成

アクション・プランの作成から定性的に分析し、市民社会における SDGs を促進していくための学習アプローチを考察したものである。

表3にある通り、SDGs 学習の構成内容については、今回の基礎講座の中で試みた、導入「2030SDGs カードゲーム」、展開「地域社会、企業、海外とのつながりと SDGs」、まとめ「アクション・プランの作成、発表」という流れで進めることが一つ提示できる。導入では、SDGs が特徴としている経済、社会、環境のバランスをとることの難しさや SDGs の全体像について理解を深めることができる。参加者の振り返りシートや講座全体のアンケート結果からも、2030SDGs カードゲームを通じて、SDGs の特徴やその概要を学ぶことができたという意見が多かったことから、有効であると考えられる。そして、SDGs の 17 の目標と関連した身近な地域社会、企業や海外とのつながりに関する具体的な取り組み内容を解説することで、SDGs の取巻く課題や各目標との結びつきに関する複眼的且つ横断的な視点を培うことができる。このことは、参加者の振り返りシートや講座全体のアンケート結果からも明らかである。SDGs を学ぶ最後のまとめとしてのアクション・プランづくりは、参加者の SDGs に対する学びの内容を浸透させ、SDGs に対して当事者意識を高めることにつながる。本件についても、参加者の振り返りシート、アクション・プランや講座全体のアンケートの内容から確認がとれた。

市民を対象とした SDGs 学習プログラムを作成する際の留意点としては、身近な日常生活に関する内容、地域性のある話題や市民に馴染みのある取り組み等を取り上げることで、参加者（市民）への SDGs に対する理解度を深め、自分事として捉えることへつながると言える。本件に関しては、筆者がつながりの会のメンバーと共に出展した「第46回松戸市消費生活展（2019年）」の SDGs パネルの展示でも、松戸市における地産地消、子ども食堂やフェアトレードの取り組み等と SDGs との関わりに焦点を当てることで、SDGs に対する理解を促すことへつながったことと一致する（佐藤、2020）。また、SDGs の 17 の目標がお互

いに関連し合い、その様々なつながりを参加者へ提示して、課題に対する多角的な視点を身につけることで、SDGs の本質についてより理解を深めることができる。さらに、ローカルな視点に加え、世界と日本の生産者、消費者がどのようにつながっているのかについて、グローバルな視座を提供していくことでより幅広い視点から物事を俯瞰して捉えることが可能になるだろう。講師の選定に当たっては、今回のようにできるだけ地元で実際に活動をしている人を招聘することで、より実感があがり馴染みのある内容を提供することができる。

講座の運営面では、社会人向けにもう少し回数を減らしてコンパクトに SDGs 基礎講座の内容を提供できないかという参加者の意見もあったが、SDGs に関して当事者意識を持って取組んでもらうためには、ある程度時間をかけて深みのある学習内容を提供する必要もあることから、この点に関しては今後も検討を重ねていく。

今回は、主として講座形式による学びとなったが、今後は SDGs の目標達成へ向けて市民社会での行動変容を確かなものとしていくためにも、ワークショップを通じた対話による学びの促進やフィールドワーク等を取り入れた現場体験型 SDGs 学習の内容がより一層求められる。今回の松戸市民向け SDGs 基礎講座でも明らかとなったように、いかにして地域の人、組織、資源や物等と関連する SDGs の身近な学習材料を発見・整理し、それらと地域社会を結び付けていくのかという視点から、SDGs 学習の構成内容についてより一層検討を深めていく必要がある。

最後に、松戸市における SDGs 学習の普及啓発の展望を述べて終りとしたい。SDGs を市民社会の中で促進させるためには、一つの組織だけでは限界があることから、他の団体や関係者ともネットワークを形成した取り組みを展開し、SDGs をけん引するリーダーをつくりだしていきたい。そして、松戸という地域性を特徴とした SDGs の普及啓発ということを考えるのであれば、同市において市民が馴染みのある SDGs の学習材料を整理して松戸版 SDGs 冊子本等としてまとめることや、

NGO/NPO、市民活動団体とその関係者、そして市民が松戸市での SDGs スタディツアー等を開催することによって SDGs を現場で考える機会を提供し、SDGs の広報や普及啓発の促進につなげていく必要がある。また、松戸市で SDGs をみんなで考えるフォーラムの開催や、市民向けの SDGs 講座の継続も引き続き重要であろう。

SDGs の「目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう」にもあるように、市民社会が様々な関係者と連携・協働して SDGs の 17 の目標のつながりを意識しながら、あらたな地域社会の価値をうみだしていくための SDGs の枠組みの活用が、地域づくりや地域活性化を進めていく一つのアプローチとしてその効果を発揮していくと考えられる。

謝辞

本論文の執筆に当っては、まつど地域活躍塾つながりの会のメンバーの皆様と「松戸市民向け SDGs 基礎講座」の参加者のご協力に厚く御礼申し上げます。

〔注〕

- (1) 日本政府が挙げている 8 つの優先課題は、「①あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現」、「②健康・長寿の達成」、「③成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション」、「④持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備」、「⑤省エネルギー・再生可能エネルギー、防災・気候変動対策、循環型社会」、「⑥生物多様性、森林、海洋等の環境の保全」、「⑦平和と安全・安心社会の実現」、「⑧ SDGs 実施推進の体制と手段」である（バウンド、2020）。この中には、2020 年の日本における SDGs の最大の課題として残っている、ジェンダー、環境、パートナーシップの内容が含まれている。
- (2) 株式会社伊藤園は、「茶畑から茶殻まで」の一貫した生産体制を構築して調達から製造・物流、商品企画・開発、営業・販売の一貫体制（バリューチェーン）全体で価値創造をし、SDGs の目標 12「持続可能な生産と消費」など、幅広い目標に貢献している。この成果が認められ、伊藤園は SDGs の達成に向けて、優れた取組みを行う企業・団体等を表彰する第 1 回ジャパン SDGs アワードにて、SDGs パートナーシップ賞（特別賞）を受賞している（外務省、2017）。
- (3) まつど地域活躍塾つながりの会は、松戸市役所が主催する「まつど地域活躍塾」の修了生の有志

により結成された市民団体で、松戸市市民活動団体として登録されている。なお、つながりの会の会員は、21 名である（2020 年 10 月 18 日時点）。筆者は 2019 年 4 月からつながりの会の SDGs 推進メンバーとして従事し、今回の SDGs 基礎講座の企画立案、広報、運営、モニタリングや評価等に携わった。

- (4) チラシは、筆者がつながりの会の SDGs 推進メンバーを中心とした意見を取り入れながら作成した。
- (5) 本講座の運営はつながりの会の SDGs 推進メンバーが中心となって進め、当会の会員の協力や 2020 年度まつど地域活躍塾第 4 期生 2 名を実習生（第 3・4・5 回目の講座受講およびサポート）として受入れた。また、講座開催に当たっては、市や施設のコロナウイルス感染防止対策のガイドラインを十分に遵守して進めた。
- (6) 図 4 のチラシは 500 部を印刷して配布したが、その後、講師陣を紹介する資料（A4 版 1 枚）も作成し、SNS 等を通じて広報を行った。
- (7) 参加者の属性は、男性 3 人、女性 3 人の計 6 人、年代は 40～50 代で、全員松戸市内に居住していた。なお、参加者に回答してもらった Google フォームによる事前アンケートの「どこで本講座開催のことを知りましたか」という質問では、チラシ、Facebook やつながりの会からの紹介等を受けて本講座への申込を行っていた。今回、コロナウイルスの感染拡大があり対面式で参加を希望する人が少なかったのかもしれないが、もう少し多くの参加者を募るための工夫が、今後、さらに求められる。
- (8) 本文の中での講義の概要については各講師が作成した発表資料等に基づき、筆者が記述した。
- (9) SDGs 基礎講座の各回における講師は、基本的につながりの会の会員メンバーとその関係者が担当した。彼らの多くは、松戸市内外の地域や企業において、消費者教育、環境教育や環境保全活動を実践している人がいるため、できるだけ組織内部の人材を活用した講師を配置した。また、松戸市在住の講師が自ら SDGs との関わりを伝えることで、SDGs がより地域性のある身近な内容になることも重要と考えた。講師の人たちには、あらかじめ講義する自分の活動等を SDGs の 17 の目標を通じてあらためて見直しをしてもらい、SDGs を複眼的且つ横断的に捉えてもらう内容も含めて依頼した。なお、つながりの会の会員と外部講師を務めた講座回は、次の通りである。第 1 回：つながりの会会員 2 名、第 2 回：つながりの会会員 1 名、外部講師 2 名、第 3 回：つながりの会会員 1 名、第 4.5 回：つながりの会会員 1 名（筆者担当）。
- (10) 「2030SDGs カードゲーム」は、プロジェクトデザインと一般社団法人イマココラボが開発した

SDGs の全体像を理解する教材である。環境、経済、社会をテーマとしたそれぞれのカードのつながりを考え、SDGs の必要性や今後の世界の様々な課題へ取り組むための本質的な視点を提供してくれる体験型のゲームである。なお、このカードゲームは、一般社団法人イマココラボが開催する公認ファシリテーター養成講座を受けた人のみが実施できることになっている。本講座では公認ファシリテーターの講座を受け、それに認定されているつながりの会の SDGs 推進メンバーの一人が、「2030SDGs カードゲーム」を実施した。なお、カードゲームの実施に当っては、参加者の数が少なかったため、つながりの会のメンバー4名が応援に入った。

- (11) エビ養殖場の環境・社会問題については、筆者がバン格拉デシュやインドネシアでの現場踏査による経験に基づいて記載している。
- (12) 水産エコラベル認証については、参考文献にある水産庁 (2020) を参照のこと。
- (13) 各アンケートの質問項目やアクション・プランのフォーマットの内容は、「3. 結果・考察」のそれぞれの分析結果のところで示す。なお、アンケート、振り返りシートやアクション・プランのフォーマットの内容は、つながりの会の SDGs 推進メンバーと相談しながら、筆者が作成した。
- (14) 事前アンケートは、6名の参加者からの回答を得た。質問項目では、「①お名前」、「②ご年齢」、「③お住まい」、「④連絡がとれるメールアドレス」、「⑤今まで SDGs という言葉聞いたことがありますか」、「⑥どこで今回の講座のことを知りましたか」、「⑦講座への参加動機を書いて下さい」の7つの項目について回答してもらった。本研究では、講座内容と関係のある⑤と⑦の質問内容について分析を行った。なお、参加者属性等の情報については、上記の注7)を参照のこと。
- (15) 参加者の都合で講座の欠席もあったが、振り返りシートの回収枚数は、下記の通りである。第1回:4人、第2回:3人、第3回:6人、第4回:5人。第3・4回目では、2020年度まつど地域活躍塾第4期の実習生にも振り返りシートを書いてもらい、その内容を含めて分析した。なお、講座を欠席した人には配布した資料を送付することや、講義の中で振り返り等を通じて対応するよう努めた。
- (16) アクションプランの作成・発表には、まつど地域活躍塾第4期の実習生も参加した。
- (17) 講座の全体アンケートは、第3~5回に参加した2020年度まつど地域活躍塾第4期の実習生2名にも書いてもらった。また、従来の参加者6名の中には、初回のみ参加1名、最終回のみ参加1名がいたが、最終回のみ受講者が講座の全体ア

ンケートに回答してくれた。

参考文献

- 朝日新聞「2030SDGsで考える」https://miraimedia.asahi.com/sdgs_survey06/ (2020年11月21日閲覧)。
- 関東経済産業局・一般財団法人日本立地センター (2018)「中小企業のSDGs認知度・実態等調査結果概要 (WEBアンケート調査)」https://www.kanto.meti.go.jp/seisaku/seichou/data/20181213/sdgs_chosa_houkoku_gaiyo.pdf (2020年11月21日閲覧)。
- 外務省 (2017)「Japan SDGs Action Platform, ジャパンSDGsアワード, SDGsパートナーシップ賞 (特別賞), 伊藤園株式会社」(2020年12月25日閲覧)。
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/award/index.html>
- 学校法人先端教育機構 (2019)「事業構想オンラインニュース」<https://www.projectdesign.jp/199902/news/007206.php> (2020年11月21日閲覧)。
- 佐藤秀樹 (2020)「2030年のSDGs達成へ向けた市民レベルでの取り組みの課題と今後の方向性に関する考察:松戸市消費生活展でのパネル展示による事例から」, 江戸川大学紀要 (30) 99-114。
- 水産庁 (2020)「水産エコラベルをめぐる状況について」<https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/budget/attach/pdf/suishin-16.pdf> (2020年11月24日閲覧)。
- 田中治彦 (2020)「第67回研究大会報告・発表資料集, 報告1:「SDGsと社会教育・生涯学習」研究の展望」, pp.1~2, 日本社会教育学会。
- 地球の木 (2010)「マジカルバナナV3」。
- 中小企業庁 (2019)「2019年版 中小企業白書」https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2019/PDF/chusho/00Hakusyo_zentai.pdf (2020年11月24日閲覧)。
- 帝国書院 (2018)「エビの漁獲量トップ10と日本の輸入先」<https://www.teikokushoin.co.jp/statistics/map/index06.html> (2020年11月24日閲覧)。
- バウンド (2020)『図解即戦力 SDGsの考え方と取り組みがこれ1冊でしっかりわかる教科書』, 技術評論社。
- Sachs, J., Schmidt-Traub, G., Kroll, C., Lafortune, G., Fuller, G., Woelm, F. "The Sustainable Development Goals and COVID-19. Sustainable Development Report 2020.", June 2020, Cambridge University Press.
https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopmentreport/2020/2020_sustainable_development_report.pdf (2020年11月21日閲覧)。